

創立50周年に向けた特集企画です。学園の歴史やエピソード、記念事業や後援会活動など「50周年カウントダウン」のなかで、お知らせしてまいります。ご期待ください!

50周年カウントダウン

高等専修学校 泉先生に聞きました 「どうして技能？」 ～武蔵野東高等専修学校になります～

来年度から武蔵野東高等専修学校に校名を変更します。では、なぜ技能を入れたのか？それは、当時の制度において、校名の中に学習内容が分かるものを入れなければならなかったからです。そこで当時の設置課程は「芸術」「家政」「技能」の三課程があり、芸術や家政を入れたのでは一つ分野に間違われてしまう為、技能高等課程（タイプ科）の「技能」を用いて武蔵野東技能高等専修学校が誕生しました。

では、なぜ技能を取るのか？取るというよりもむしろ本来ある姿に戻すという事になります。それは、校歌の中に技能が無い様に、もともと技能を付けるはずではなかったからです。

そこでこのたび、学園創立50周年記念の年に合わせての校名変更に至りました。また、校名変更に伴い「被服コース」を「ファッションコース」、「情報コース」を「情報ビジネスコース」、「調理コース」を「調理・製菓コース」に改名いたします。

お泊り保育にお父さん出動 50周年記念行事・文集座談会～幼稚園レツの話から

10月上旬に年長さんのお泊り保育が実施されました。毎年恒例の行事ですが、今回は「はじめて」が2点ありました。

一点目は、れんげ・すずらんグループのお友達と一緒に参加となったことです。昨年まで行っていた山中湖は距離が遠すぎて参加が難しかったそうです。

二点目は、何と妹・お父さんにはお父さんたちが抜擢されました！Let's（お父さんの会）の活躍の場がもう一つ増えました。

平日にも関わらず、14人のお父さんが最初のポイント「名乗げんきブザ」に集合。自然あふれる環境の中で、子どもたちとぶんぶん双作りや、スタンプラリーのお手伝いをしました。宿泊先の「いこいの村ハイジメの山」へ先回りしてお父さんたちは、指定の部屋へ荷物を運んだり、キャンプファイヤー場での役割を決めたりしました。夕食は子どもたちと摂りながらも、気が付いたらお水汲み係りを任されていました。

キャンプファイヤーでのクイズはファイヤーマンの登場シーン。事前の打ち合わせにはなかったクイズにも即急に対応したお父さんたちの柔軟性は今後も語り継がれる事でしょう。

二日目はかなりハードな山道を子どもたちと楽しく登りました。みんなが頑張ったから登れた、ともだちと一緒に登れた気がします。大きな怪我も無く、全員無事に幼稚園へ帰った子どもたちは確実に成長していました。子どもたちと一緒に過ごせた貴重な経験でした。来年年長のお父さんには是非参加してみても如何でしょうか？今から有給休暇の手続きを！（年長 N）

むらさき会新年会

1/18(土)、過去最高の参加者数(約500名)で、むらさき会新年会が盛大に開催されました。

だいぶ手狭になってきた小学校体育館とサブアリーナは、今年も人と熱気で満ち溢れていました。先生方を囲んで普段なかなか話さけない会話を楽しむ姿、子供達の成長を熱く語り合う声、学年を越えた保護者同志の交流等々、参加者の皆様が思い思いに楽しまれている様子が伺えて、今年も笑顔一杯の会になって良かった！と執行部一同安堵しております。

先生方にはお忙しい中、会場準備から片付けまで大変お世話になり、心より感謝申し上げます。保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。来年も大いに盛り上げて参りましょう。(高1 S)

編集後記

今号は、今年度最後の後援会だよりとなりました。皆さま、一年間ご愛読を頂き、ありがとうございました。また、保護者の皆さまにつきましては、原稿執筆等のご協力を頂き、ありがとうございました。編集委員一同、深く感謝するとともに、厚くお礼申し上げます。

私は、編集委員になって二年目となります。一年目と比べると、二年目は少し余裕を持って作業が出来るようになった気がします。「石の上にも三年」、この言葉を肝に銘じ、三年目の来年度は、より良い誌面作りが出来るよう頑張りたいと思います。皆さま、来年度も宜しくお願いたします。(S)

- 編集委員会（編集スタッフ）
- | | | |
|------|--------|------------|
| 高等専修 | 山莊 陽子 | 前原かおり |
| 中学校 | 高田 ひろみ | 竹中真知子 |
| 小学校 | 石原 雅弥 | 大河原ひろみ |
| 幼稚園 | 竹中 雅子 | 黒田菜津美 |
| 高等専修 | 松田 直基 | 大槻 敬 家住 隆士 |
| 中学校 | 内藤 忠男 | 青柳 博行 |
| 小学校 | 松井 幹和 | 咲間 全雄 |



武蔵野東学園 連合後援会だより



こんにちは。とうとう今年度も最終号になりました。さまざまな行事で賑わったが、来年度の50周年に向け盛り上がってまいりました。そのなかで卒業されていく方の想いも引き継いでいけたらと思います。それでは最終号をどうぞ(M)

櫻(たすき)をつないで

学園の様々な行事や集会で櫻が大活躍中！
そのうちの一部をご紹介します。

学園祭～小学校CDE劇

11月9日

小学校に入学して3回目の学園祭での劇。当日の朝、なんだか表情も暗く不安げな息子。どうしたのか聞いてみると「緊張しているんだよ」との答え。そんな感情が芽生えたことに嬉しさを感じた反面、心配にもなりました。

しかし、舞台上立った息子は、棒読みだったセリフにも抑揚が付き、不安げな表情もなく堂々としていました。他のお友達もそれぞれの役を自分のものとして演じて頑張っている姿に感激し、胸一杯になりました。緊張感をもって舞台上立つことができる・・・そんな風に導いてくださったのは、ひとえに先生方の時に温かく、時に厳しいご指導の賜物と感謝いたしております。

劇発表会の良さは、わが子やお友達の成長を見ることが出来るだけでなく、学年が上がるにつれてこんな風に成長していこうと思ひ描き、期待と夢が広がることです。そして、AB組のお友達にも支えられていることや、今回は50周年の「櫻」を通して学園全体の絆も感じることができました。これからも、たくさんの絆や支えの中で成長していく息子や子ども達の姿を見守り続けていきたいと思っております。(小3 O)

ウェルカムパーティー

2月14日

2月14日、ガーランド理事長をはじめボストン東学園総勢10名の保護者、先生方をお招きして、ウェルカムパーティーを催しました。当日は記録的な大雪ではありましたが、会場となりました「北原記念館のゆうアンドあい」は暖かく、和やかな雰囲気です。両学園の保護者、先生方と懇親を深めました。食事は高等専修学校の今城先生(コック長?)の渾身作が大変美味であり、「お・も・て・な・し」が出来たと思っております。ボストン東の皆さんから、「14日は各園校に伺い、東京の武蔵野東の良さを再確認しました」と嬉しい言葉をいただきました。会の終わりに高等専修学校の「陶芸作品」と、本年度小中学校の親父の店やエンジョイで作った「親父の東まいかけ」をプレゼントさせて頂き、来年の再会を誓いお別れいたしました。後援会皆さんの代表として立ち合わせて頂き有難うございました。(中学校後援会会長 大槻 敬)

櫻への想い ～臼井代表幹事 卒業のご挨拶

息子の幼稚園入園から15年間、武蔵野東学園と共に歩んできました。最後の1年は、これまでの日々を振り返りつつ、今日1日、そして明日と、一歩先を確かめながら過ごしてきました。

その過程において、「教育者・北原キヨ博士が目指した真の教育とは何か」ということを反芻しました。その答えは、後継者である現役の先生方の教えを受けた、息子と娘が、それぞれ導き出してくれたと思っています。機が熟すれば、例え先が見通せなくとも、そっと踏み出すだけで、歩みを進めることができる。そのためには、目先のテクニックではない、初心を忘れぬ、実体験に基づく真の教えがあるのだと思います。

我が家が、この学園を通じて大切だと気付いたことは、そういう謙虚で、ピュアな姿を大切にしている心です。50周年記念行事である櫻リレーも、そのシンボルになって欲しいと願いつつ、最終章を閉じることとします。(後援会代表幹事 臼井 周平)

すてきな発表会 がんばったね



40年ぶりの大雪。二人とも着くまでに体力を使い切ったかのような表情で会場に入りました。昨年は背景が気になったり、その場の雰囲気戸惑ったりで、立っているだけで精一杯の様子でした。

今年は、一人は自分の置かれた状況を理解していたのか緊張しながらの演技、もう一人は練習の成果を発表できることを素直に楽しんでいるような演技でしたが、彼らなりのチャレンジをして頑張っていることが伝わってきました。年長さんらしく堂々と誇らしい表情で演技している姿を見て、やはり発表会は子どもたちにとっても特別なものなのだと改めて感じました。一人はやり切った満足感からか発表会を思い出すことはあまりありませんが、もう一人は発表会が余程楽しかったのかまだその余韻に浸っております。

二人とも練習や本番を通していろいろな経験を積むことができました。卒園後もいろんな場面で物おせず頑張ってくれるものと期待しています。(年長0・H)

幼

各校レポート 発表会編

発表会の朝、娘は通常より遅くに家を出ても間に合うのに、なぜかいつもと変わらない時間の起床でした。ふと気がつく洗面所から30分近く顔を出さないの、中の様子を覗いてみると輪ゴムを口にくわえ颯爽と髪を結う娘の姿が鏡に映っていました。ダンス用の髪形だったんですね。娘は友達と待ち合わせ、発表会の会場まで向かいました。つい最近まで何をすることも私の助けが必要だった娘が、随分と成長したものだと感じてしまう朝でした。

発表会ではオープニングに相応しい迫力ある小中学の吹奏楽部の演奏で始まりました。1年生から6年生の小学生たちが演じているとは思えない素晴らしい舞踏劇、小学校からの練習の積み重ねがあって、中学校1・2年女子のダンスの素晴らしい大人の演技に繋がっているのだと実感しました。

武蔵野東での教育を受け続ける事が発表会の演技だけでなく、子どもたちの自信や自分で考え生きていく力に繋がっていくのだと強く感じました。(中1 N)

中



初めての発表会。前日のリハーサルで本物の舞台を体験し、それまでの練習の成果を出したいという思いが強くなったのでしょうか？息子は当日の朝、珍しく緊張していましたが、それでも終演後には、ほっとした様子で「楽しかった」と笑顔を見せてくれたので、本人が納得できるステージだったのだと嬉しく思いました。

1年生はもちろん他の学年の作品も、それぞれの頑張りが伝わってくる発表会だったと思います。得意でないことをしている子どももいるはずなのに、皆がしっかりとできていることに本当に驚きました。発表会という大きな目標に向けて子どもたちの気持ちが盛り上がるよう、先生方が地道に指導して下さったからだと思います。

来年度以降の発表会では、息子も難しいことに挑戦する場面があるでしょう。そのような過程で努力することは、発表会の成功のためだけでなく、心の成長にもつながる機会になることと思います。応援しているよ！(小1 M)

小

卒業にあたって

大きめだった制服も今は短いくらいになり、改めて3年間の成長を感じるようになりました。

3年前、これから始まる幼稚園生活に期待と不安の入り交じる中、「子どもは子どもの社会で育つものだから安心して」と、背中を押して下さった園長先生のお言葉通り、娘にとって幼稚園生活は、先生とお友達との楽しい時間に彩られ、様々な行事を通じた経験は、私達から離れた所でも安心して立ち向かう姿を見せてくれ、たくさんの感動と子育てを出来た幸せを感じさせてくれました。

間もなく大好きだった幼稚園ともお別れ。お世話になった先生方や仲良くしてもらったお友達との思い出を忘れずに、新しい生活に出発して欲しいと願います。(幼稚園後援会 副会長 太田瑞恵)

幼

高校受験に伴い、息子が作成した自己PRカードを読んで、武蔵野東学園での12年間の集大成がそこに現れているように感じました。息子は、幼稚園のお砂場遊びで人間関係の機微を知り、小学校の行事や授業で好奇心と忍耐を学び、中学校では部活動や受験を通して友情と努力の末の達成感を得て、成長して来たように思います。

子どもの成長の歩調はそれぞれなので、いつも先生方が一緒に考え、懐を広く見守って下さっていた事に救われ、感謝しておりました。

私も後援会活動を通して、多くの方との友情に恵まれて、広い視野を授けて頂きました。皆様と共に成長過程での子供達の一挙一動に、驚き、悩み、時には怒り、また笑った日々を、懐かしく愛しく感じております。

巣立ちを迎える子どもたちには、育まれた心の礎をそれぞれに携えて、新しい舞台へ羽ばたいてほしいです。

(中学校後援会 副会長 瀧澤浩美)

中

不安で必死だった幼稚園、年少で武蔵野東学園に入園しました。

何も語らず、走り回り、目を離すと一瞬でいなくなり、やりたい放題でした。今では、一人で電車で遊びに出掛け、「静かにして！」と言う程喋り、パソコン操作を教えてください、家事をテキパキこなす役立つ男になりました。

学校生活と教育に安心感と期待が持て、数々の行事で頑張っている姿、友達と楽しんでいる顔を見る事も出来ました。

卒業を迎え、新たな不安や寂しさはありますが、東で身に付けた根性と体力でこれからの人生を力強く歩んで欲しいと思います。

十五年間、お世話になりました。たくさん先生、友達に感謝したいです。ありがとうございます。

(むらさき会代表幹事 高3 山脇章子)

むらさき会

7年前に学校見学をさせていただいた時、CDE組の発表会練習を拝見しました。私は「歌」というもので初めて感涙いたしました。

息子も「東」の雰囲気が大好きになったようで、「絶対、東小に入りたい」と頑張りました。親子共々、武蔵野東小学校での生活は本当に楽しいものでした。息子は剣道に出会い一生懸命とりくみました。「努力する価値」を机上ではなく体験を通して教えてくれたのは、CDE組の友達でした。また、先生方の熱意はいつも子どもを励まし続けてくれました。

3年間の後援会活動はただただ楽しく充実していました。力不足の私でしたが、先生方はじめ、役員の方々、保護者の皆様、東っ子たちに支えていただき、学園生活をめいっぱい楽しめました。心より感謝いたしております。本当にありがとうございます。

(小学校後援会 副会長 木幡綾子)

小

東学園にお世話になり、早12年。いよいよ巣立ちの時がやってまいりました。

今まで息子は、どれだけ多くの方に支えられてきたことでしょうか。いつも温かなご指導を下さった先生方、共に歩んできた友達、全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。学び舎で培った経験が生きる力となり、今後の人生も一步一步前進していけることを心から願っております。

また微力ながら、むらさき会と後援会のお手伝いをさせて頂きましたが、至らない点も多々あったかと思えます。無事に活動してこられたのも、先生方と保護者の皆様のお力添えのお陰と思っております。本当にありがとうございました。

東学園の今後益々のご発展をお祈り申し上げます。

(高等専修学校後援会 副会長 森本頼子)

高

⇒卒業したら後援会OB会へ

私達はこどもたちが東学園を卒業したあとも学園の応援団を続けていきたいという思いを持った保護者の集まりです。

年齢層も幅広いため、誰でも参加できるような「ゆったり企画」として、観劇、旅行、忘年会といった親睦会、学園の花壇整備などといった奉仕活動を開催しております。1度参加すれば、顔なじみ。

時代も違う東談義をしながら和気藹々、楽しく活動しております。ご案内のチラシはご卒業の際の資料内にありますが、紛れがちです。

お子様がご卒業の晩には、2千円の年会費と熱い情熱をポケットに皆様のご参加お待ちしております。(おおた)